

# KOCHI 2022 ROTARY 2023 CLUB SINCE 1937



IMAGINE  
ROTARY

2022-23年度 RIテーマ

## 週報



Weekly report 第3509回 2022年7月19日 2022年7月26日発行

### ● 会長挨拶

皆さん、こんにちは。今日は、井上ワイナリーの井上様にお越しいただき、卓話をお願いしていますので、せめて着物で葡萄に関係するものをと帯や着物を探していると、着物には結構葡萄の柄があることに気づきました。では、着物に葡萄の柄が取り入れられたのは、いつごろなんでしょうと勉強してみました。



葡萄というのは、古来エジプト、オリエントのころから、実がたくさんなるため豊穰、子孫繁栄等々、聖なる果物とされてきました。ガンダーラ仏教の中でも、つるの部分唐草に見立てて、葡萄唐草という柄があります。それが、経典の中で使われるようになり、仏教文化と一緒に中国に伝わり、そして、奈良時代に日本に入ってきます。日本では主に、鏡の裏面の柄などに使われていました。平安時代、一時期、外国のものは置き去りにされる時代があったようですが、室町時代になると再び見直されて、陶器や能衣裳などに葡萄唐草が使われています。

明治に入って新しい西洋文化を取り入れる中で、葡萄は外国のフルーツ、西洋のものとして、好んで葡萄唐草を着物や帯に取り入れるようになったそうです。葡萄唐草の模様は、唐草の下の左右に葡萄と葉があるのが基本ですが、それをアレンジしたり、葡萄そのものを写実的に書いたものもあります。現在でも、葡萄の柄は着物や帯に多く使われていますので、皆さんも気をつけてご覧になってみてください。

調べていく中でもう一つ出てきたのが、葡萄というのは、つるが絡まって実をならすということから、いろんな人を巻き込んで何かを成し遂げる、成功という意味も持っているようです。

今日お越しの井上さんが土佐でワインを造ろうと思ってから、きっといろんな方たちが絡み合い、努力して、実を結んだのではないかなと思います。今日のお話、楽しみにしています。



### ■ 本日のプログラム [ 7月26日 ]

新入会員スピーチ  
(株)RT 代表取締役社長  
山本 晋爾 会員  
「美容業界の歴史とRTの歩み」

会 長	杉 本 芙美子
副 会 長	中 澤 陽 一
幹 事	佐 竹 新 市
副 幹 事	細 田 長 司
会報責任者	南 南 範 子



● **ロータリーソング** 「四つのテスト」

● **今週のピアノ曲** 竹内まりや 「けんかをやめて」

ピアノ演奏：宮地公美子会員

● **来訪ロータリアン**

高知西RC 井上孝志氏

● 先週、承認いただいた昨年度の決算書類に一部脱落がありました。

58ページ、地区関係最後の(12)地区大会登録料 予算額84万円、決算額0、比較増減マイナス84万円の1行が抜けていることが例会終了後に判明。但し、小計、合計額には影響はありません。

(承認の拍手)



● **ゲストスピーチ**

## TOSAワインのこれから

井上石灰工業(株)・井上ワイナリー(株)  
代表取締役社長 井上 孝志 氏 (高知西RC)



10年前の2012年、ブドウ栽培に着手しました。このときは2、3本を植えただけでしたが、翌年は少し多く植えて、稲生と山北にほ場を設けて定植。2015年、初めての収穫。山梨の醸造所で仕込みをして、2016年10月、お披露目会で初めてのワイン

を皆さんに味わっていただきました。その後、県の産業振興計画等にも取り上げていただき、昨年2月、醸造設備が完成。3月に醸造免許を取得。昨年夏、初めて県産のブドウを仕込んで、土佐の日(10月3日)に販売しようと決めました。理由は2つ。土佐の日は覚えやすいことと、ボジョレーヌーボーが販売される前に売ろうという作戦です。当日、百数十本と販売本数は多くはなかったのですが、アグリコレットさんで10時開店2分で売り切れました。嬉しいスタートを切りました。

醸造施設ができましたので、今年4月、貯蔵するワインセラーを完成させ、同月29日にのいちの醸造所をグランドオープンしました。27日に先立って、知事はじめロータリーの方々にも来ていただき落成式を行いました。

建物の門柱の表に使っているのは石灰岩。花壇のレンガは、石灰を焼く際に使った耐火レンガの使い終わったものです。石灰メーカーの面白さも出しながら、ワイナリーをつくっています。店内も石灰の石を張り巡らせて、ワインと高知に由来するような食べ物を取り揃えています。ワインのテイastingマシンも揃っています。中でも人気なのが海が見えるウッドデッキ。フリースペースですので、晴れた日は皆さんくつろいで、ここでテイastingのワインをお飲みになる方が多くいます。50過ぎぐらいの女性4人のグループは4

時間いらっしやいました。最長記録です。

ワインを造ろうと思ったきっかけは、マンズワインでブドウ栽培を担当して、醸造もよくご存知の志村富男さんという方がいて、私はこの方と一緒に、我々のやっているICボルドーという農薬を販売するために、海外へブドウ栽培のコンサルティングに出かけていました。その志村さんから「人に教えるだけじゃなくて、自分でも作ったらどう」と言われました。なるほどと閃くものがあった、そのとき考えたことが三つ。もしブドウを栽培するとして、高知の地質がどうなのか。気候はどうか。できたとして、どうやって名だたる産地のワインと差別化ができるか。

ブドウは弱アルカリの土地を好んで生育します。高知県は、純度の高い石灰石が眠っていますので、南国市の稲生鉦山は、もしかしたらブドウづくりに土壌が合うかもしれない、使えるかもしれないと思いました。次に気候です。高知県は山梨などから比べると年間3倍ぐらいの降水量があり、梅雨時などは、水分を介して菌が広がって病気が出やすい。ヨーロッパのブドウの品種をそのまま持ってきて、高知では難しい。そこで、志村さんが開発したメルローやピノ・ノワールと山ブドウを交配した品種を使おうと。雨に関しては、ビニールの傘をかぶせるレインカット方式であれば、直接雨がかからないので病気が発生しにくい。こんなアドバイスを受けました。そして、差別化については、高知にしかないものと組み合わせる「カツオのタタキにこじやんと合うワイン」をつくる。これが勝負どころだと考えました。

食べ合わせを測定する機械があります。測定には酸味・苦味・塩味・甘味・旨味の5つのポイントがあり、全ての要素が整うとおいしいと感じます。高知大学さんにも協力していただいて、測定しました。メルローをベースにした稲生というワインと土佐あかうしのステーキが100点満点中97.1点、ピノ・ノワールを親にした山北というワインとカツオの塩タタキは98.3点。科学的にも結果が出ましたので、これで進め



られると自信を深めました。

高知県は東西に長くそれぞれの地域でいろんな食材がありますが、ロットが小さく、全てが点で存在しています。ここにワインを持ってきて点と点が繋がったら、高知県の観光振興のお手伝いができるのではないかと。つまり、カツオのタタキの久礼、あかうしの嶺北、ウナギの四万十、それぞれの産地のブドウでつくったワインが各地にあれば、ちょっと行ってみたいくなるのではないだろうか。土佐流「ワインツーリズム」が目指せたら、高知のワインバレーというか、ワイン巡りができる地になるのではないかと考えました。

もう一つは、耕作放棄地の有効活用です。耕作放棄地が増えると農業そのものが廃れてしまいます。ここでブドウを栽培することで、雇用が生まれて、地域おこしや観光振興にも繋がる。事業をする限りは、単にワインが売れてうれしいだけでは面白くないので、こういったことを目指していこうと考えました。

次にブランディングです。ロゴマークも作りました。数字の7が7つ繋がっています。戦国時代の土佐七雄・安芸氏、香宗我部氏、長宗我部氏、本山氏、吉良氏、津野氏、土佐一条氏、この7つの地域に、それぞれブドウ畑を作ろうとしています。現在、地元の長宗我部の南国市、香宗我部の香南市、安芸の土佐CCの敷地内、梶原町、佐川町。あと本山氏と土佐一条氏ができていませんが、現在進行中です。

第1段として梶原町と連携協定を結びました。ある会で町長と隣席になり、ワインを造りたいという話をすると、町長から、それはやろうと。ジビエに合うワインを造ってほしいと、意気投合してトントン拍子に話が進みました。

次が香北です。我々は人出が足りませんので、農福連携で地元の香北老人クラブと連携を結びました。アンパンマンミュージアムの隣に、ほ場があります。香北の老人クラブは現役の農家さんみたいな方ばかりで、草は引く、石は取る、何も言わなくてもどンドン、楽しく作業をしていただいで、今はぶどう部会までできています。

第3弾は佐川町の農家さんに耕作放棄地を提供していただいで、栽培が始まっています。

次の第4弾は、県立高校と連携事業ができないかと考えました。昨年、県立山田高校の学生さんたちが体験学習として、ブドウの収穫と醸造のお手伝いをしてくださいました。そこ

で、地元高校を中心に市町村行政や県の試験場、普及センターと我々、PTAや老人クラブ等、産学官民の連携が取れることに気がつき、先生方にアプローチをしてみました。高校生が関わった地元のワインを造ってみてはどうでしょう。18歳でブドウを収穫して、20歳の成人式にそのブドウでできたワインを飲む。それが地域に戻ってくるきっかけにもなるし、面白い取り組みになるのではないかと。

一つには高校生もいずれは社会人となりますので、将来の顧客の育成。二つ目に、行政も巻き込んで、補助金などの支援があると栽培がしやすい。そして、PTAや家族の方も、自分の子どもが関わったワインを買ってみようかということになるんじゃないか。地元愛、地域愛が醸成されて、老人クラブのように高齢者の生きがいにもつながり、中山間地域の活性化になる。関係人口を増やしていくことによって、我々のファン層を広げたいと考えている。こんなことを呼びかけていると、梶原高校が応えてくれて連携協定を結んで取り組むことが決定しました。実例ができましたので、今度は横展開をして、特に中山間地域に近い高校生に手伝ってもらおうと進めています。

また、今はSDGsなどいろいろな社会的な動きがありますが、そこに絡めて、一般企業さんからの協賛などを募集してはどうか。ロータリーも各地域のほ場の支援をすると、ロータリー活動の広報ができる。ワインづくりを通じて地元貢献ができてしまうという、てっとり早い社会貢献にもつながります。ちなみに西RCは香北のほ場の協賛をしています。

次にやりたいことは、ずばりワインフェスです。秋晴れの青空の下、バーベキューを囲みながらワインを飲む。県外に出た若者が地元に戻るきっかけにもなり、地元愛も育む。同時に、地元のおいしい物を紹介する場にもなる。こういうワインフェスタができるようになればと考えています。

ワインづくりを通じて目指すものは、格好良きというと、高知を創るこれからの人達のために未来をつくっていこうというものです。1社だけでできるものではありませんが、自分たちでできる精一杯のことをして、未来に繋げていこうという思いでやっています。



### ◇ 例 会 変 更 ◇

高知西RC	7月29日	ロータリー休日(三)	高知RC	8月9日	休会(三)
高知ロイヤルRC	8月9日	休会(旭)	高知東RC	8月10日	休会(阪)
高知西RC	8月12日	ロータリー休日(三)	高知北RC	8月15日	休会(三)
高知東RC	8月24日	時間変更例会(阪)	高知南RC	8月25日	ピアホール夜間例会(阪)
高知中央RC	8月25日	夏の家族夜間例会(城)	高知北RC	8月29日	27日(土)に振替の為休会(三)
高知RC	8月30日	グループ夜間例会(三)			

※例会場ホテル：(三)…三翠園 (城)…城西館 (阪)…ザクラウンパレス新阪急高知 (旭)…ホテル日航高知旭ロイヤル

### 😊 ニコニコ箱 【敬称略】

井上 孝志 お車代をニコニコへ。

杉本 芙美子 井上様、今日は卓話ありがとうございました。土佐ワインが日本中はもちろん、世界へ向けて発展していくことをお祈りいたします。また、夫・延一が、ぜひ井上様のスピーチをお聞きしたいと例会にお邪魔させていただきました。

入交 章二 井上さん、TOSAワイン、実にいいですね！地域の皆さんが心を1つにできる素敵な取り組みに感動しました。今日の卓話に夢とロマンをいただき、井上さんに心から感謝感謝です。

寺田 文彦 井上孝志社長、本日は楽しい卓話をありがとうございました。オープンまでの苦勞を微塵にも出さずに、前向きに取り組むお姿は同窓生として、とても元気づけられます、香南の地の新しい観光スポットになれば良いですね。また、皆でワイナリーに集まりましょう。27期生みんなで応援しています。



◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	メイキャップ	出席率
7月19日	(-10)91	55	20	6	75%
7月5日	(-9)89	61	11	8	86%

### ● 累計額 [7月19日現在]

ニコニコ箱	81,000円	ロータリー <small>さんさん</small> 燦燦基金	11,982円	ポリオ募金	45,500円
-------	---------	--------------------------------	---------	-------	---------

### ■ 次週のプログラム [8月2日]

委員会別ミーティング

創 立 昭和12年10月  
 例 会 日 火曜日 12:30~13:30  
 例 会 場 三翠園ホテル TEL(822)0131  
 事 務 局 高知市本町3丁目2-15 高知新聞放送会館6階  
 TEL(824)8660 FAX(824)2529  
 E-mail shinairc@joy.ocn.ne.jp  
 HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>